

成田山だより「智光」1月号(毎月1回1日発行・通巻708巻)  
令和3年1月1日発行 昭和39年3月12日第3種郵便物認可

成田山だより

1 2021年  
月号

# 智光

成  
田  
山

成田山  
だより  
智光  
編集  
部

総門に掲げる山号の扁額

# 四代続く信仰と会社を 次の百年へつなげたい

竹中伸行さん

〈富山県高岡市〉

竹中伸行さんは一九六三年（昭和三十

八年）、富山県高岡市のお生まれで、市内の株式会社竹中製作所の四代目、株式会社竹中銅器の二代目社長をお務めです。

竹中製作所は一九二七年の創業。富山県の伝統工芸品である高岡銅器の製造を手掛け、現在はアルミ建材や非鉄金属材料なども扱っています。創立八十年を機に銅器部門を竹中銅器として分社化し、伝統工芸を継承するとともに新たな創造を実現し続けています。

毎年、成田山へ干支えとに関する作品を製作して奉納し、昨年は薬師堂に香閣を奉納しています。お不動さまを篤く信仰する竹中さんにお話を伺いました。

奉納ありがとうございます。

**竹中** 干支にちなんだ銅器は、私が五六歳で初めておまじりした頃、祖父がすでに奉納しておりましたので五十年近く続いていることになりました。

成田山へのおまじりは曾祖父からはじまりました。今は毎年一月二日に息子と初詣して、お不動さまへ一年の御加護ごかくごの御礼を申し上げています。代々続くお不動さまへの信仰が、自然と息子に受け継がれていることをうれしく思っています。干支のもの以外にも何か奉納したいと思っていたところ、同業者から香閣を譲り受ける機会がありました。現在コロナ



竹中伸行さん

禍で世界中が大変なことになっていて、困っている方が大勢いらっしゃると思います。少しでも早く終息してほしいという願いを込め、香閣の奉納を決めました。高岡銅器伝統の技術で紋付けと着色を行い、出来上がると早速、成田山へ運んで設置させていただきました。

弊社は六年後に創立百周年を迎えます。初代社長の曾祖父から数え、私で四代目です。二〇〇四年の社長就任以来、リーマンショックや東日本大震災といった社会の大きな変化が幾度もあり、経営は決して平坦な道のみではありませんでした。特に大変だったのは会社が抱えていた五十億円近くの借入金金の返済でした。

どのようにして  
乗り越えられたのでしょうか。

**竹中** 努力は必ず報われる、正しい道を歩けば必ず良くなると信じて、とにかく目の前にある一つひとつの仕事と必死に向き合っていました。

この地道な実績の積み重ねによって技術を評価していただき、長崎市の平和祈念像の修復、「キャプテン翼」や『こちら葛飾区亀有公園前派出所』といった有



竹中さんが奉納した薬師堂の香閣。竹中銅器が伝統技法で紋付け・着色を施し、設置も行った

名アニメキャラクターの銅像製作へとつながっていきました。仕事の幅が広がったことで収益も上がり、長い時間はかかりましたが無事に返済を終えることができそうです。

## 立ち向かう力をくれた お不動さまに感謝

全国各地で竹中銅器製作の銅像を見るができますね。

**竹中** ありがとうございます。大変なときに私を信じついてきてくれた社員と職人さんたちには感謝の気持ちでいっぱいです。人間というのは弱いもので、支えがないと困難に立ち向かうことができません。商売は、さまざまな助けがあつてはじめてうまくいくということを改めて実感しました。

しかし何よりも、これまで挫けずに頑張ることができたのは、お不動さまの御蔭です。強く信じられる存在がいつも見守ってくださっているという心の支えが



本年奉納の牛のレリーフ。伝統技法を使った千支に関する作品を毎年奉納

あったからです。お不動さまの御加護への感謝の念は、絶えることはありません。苦難を乗り越えた今、次の百年に向けて日々変化していく社会に必要とされる仕事をしていかなければいけないと思っています。同じことを繰り返しているだけでは取り残されてしまいます。業界全体の技術の維持発展に力を入れることはもちろんのこと、世相に合った商品開発など積極的に挑戦を続け、次世代に引き継いでいきたいと思っています。

ありがとうございます。  
益々のご発展をお祈り申し上げます。